

第 17 回国際火山洞窟学シンポジウム参加報告

at Hawaii from February 6 to 12

本多 力 (HONDA, Tsutomu NPO 法人火山洞窟学会所属 東京都在住)



写真19 コナ空港近くの溶岩流(1801年)の溶岩チューブ洞窟開口部

1. はじめに

ハワイ島南端部のオーシャン・ビューで2016年2月6日～12日に開催された第17回国際火山洞窟学シンポジウムに参加したので報告したい。

参加人数は総勢85名でこれまでのシンポジウムで最大の参加人数であった。

今回のシンポジウムはオーシャン・ビュー在住のボステッド夫妻とハワイ洞窟保存会とケンプ氏によって主導された。米国、カナダ、英国、アイスランド、フランス、スペイン、ニュージーランド、オーストラリア、オランダ、イスラエル、ドイツ、エクアドル、コスタリカから参加、日本人は私と家内の2名であった。

参加メンバーや発表論文、スケジュールなどの詳細はウェブを参照されたい。

<http://www.cavepics.com/IVS17/index.html>

今回のシンポジウムでボードメンバーの交代があった。以下が新しい交代メンバーである。

- Kenneth Ingham (President and Website)
- Greg Middleton (Vice-president)
- Ed Water (Newsletter)
- John Brush

今回は2018年に米国本土で行われる予定で、場所は確定していないがニューメキシコ(エル・マルpais)あるいはカリフォルニア(ラバ・ベズ)が候補に挙げられている。

2. シンポジウム開催の様子と巡検

7日間のシンポジウムは基本的に午前は講演会、午後は洞窟あるいは溶岩原の巡検という構成であった。写真1～写真2に初日の講演受付、主催者挨拶の様子を示す。



写真1 シンポジウム受付の様子